

平成20年度
全学教育科目(健康と社会)
健康長寿と口腔科学

健康長寿と口腔インプラント

2008.6.12

北海道大学病院
高次口腔医療センター
石川 誠

歯を失うと寝たきりになりやすい? 歯と全身には密接な関係

高齢者の医療費は歯の健康な人の数倍(厚労省調査)

噛めなくなると食物が細かくならず唾液の分泌が減少
→消化吸収の効率が低下

噛む力が弱くなると脳や全身への血流量が少くなり、
全身の栄養不足を招く
→顎や全身の筋肉が劣化

骨の石灰分の体外への流出が生じる → 骨粗鬆症

歯の寿命

日本人の歯の平均寿命は約60年
厚労省調査(1999年)

永久歯萌出は6、7歳
→ 70歳までもてば平均以上

「8020運動」

平成元年スタート(今年で20周年)

8020達成率 昭和62年:7.0%
平成19年:25.0%

たとえ義歯であったとしても、健全な口腔状態を
保っていれば、健康長寿を迎えることができる

丈夫な歯はボケ防止?

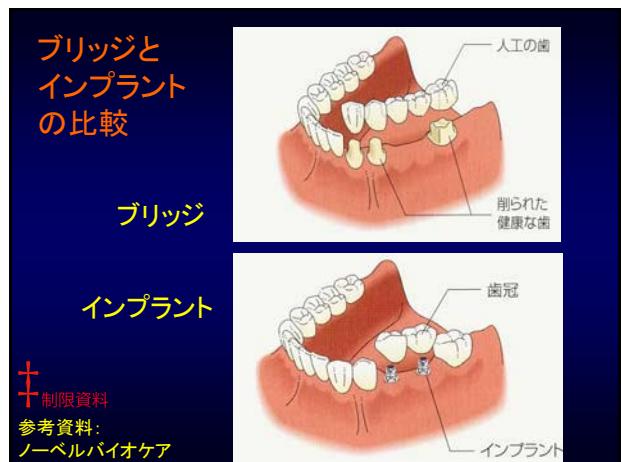
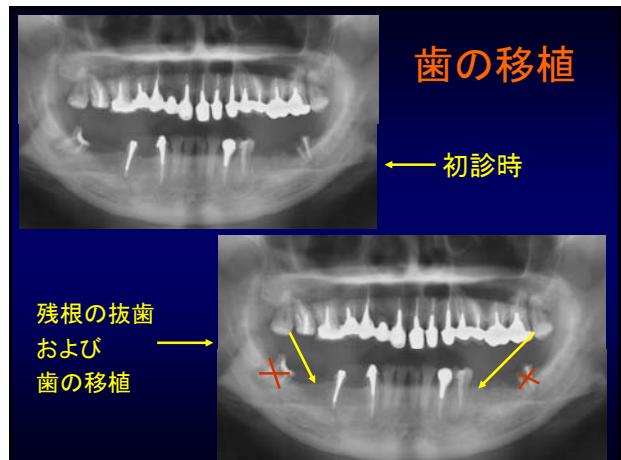
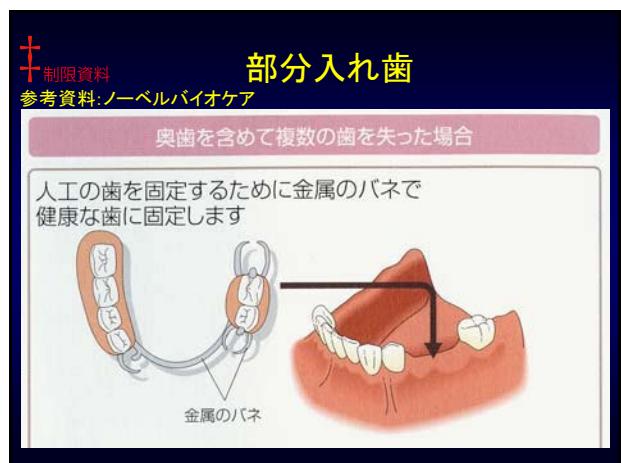
認知症(痴呆症) 歯の無いグループに目立つ

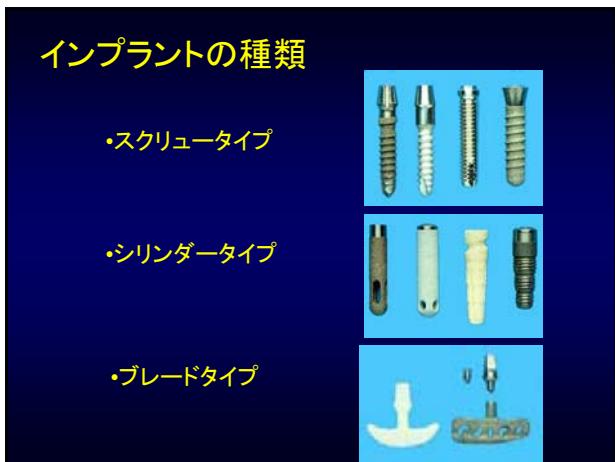
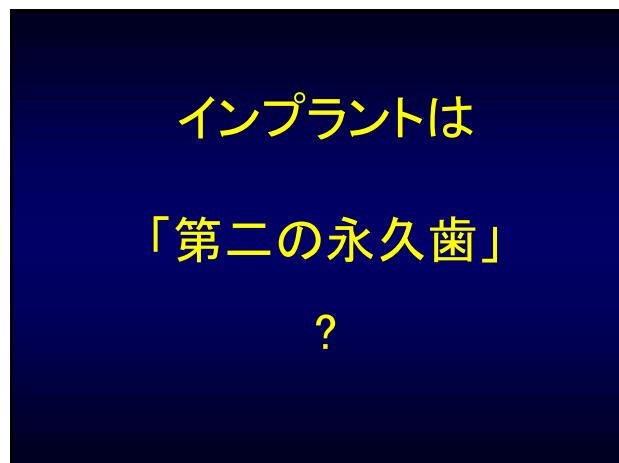
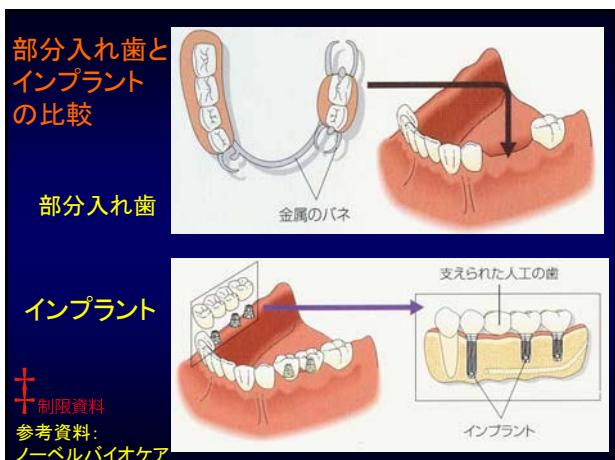
食物を噛みしめる喜びを満喫している人は、活力を持って生活を送っている

噛むことで脳が刺激され、活性化される

歯の欠損に対する補綴治療

- ・ブリッジ
- ・義歯
 - 部分入れ歯
 - 総入れ歯
- ・歯の移植
- ・インプラント







オッセオインテグレーション

Osseointegration

(1952年スウェーデン ブローネマルク博士)

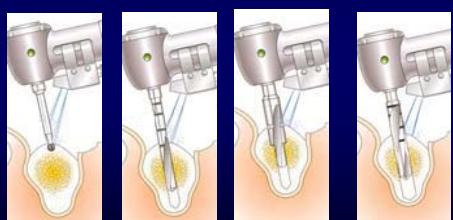
骨とチタンが強く結合し、長期に渡って拒絶反応がない事を発見

骨折した骨の治癒経過を計測するために、ウサギの膝の骨に顕微鏡を内蔵したチタン製の実験装置を取り付けて研究。実験終了後装置を外そうとしたが、なぜか強固に骨と結合してしまい外せなくなってしまった。

インプラント術式

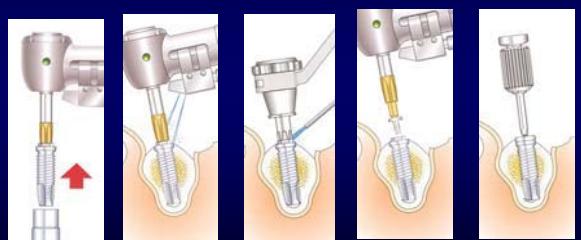
Branemark システム

インプラント窓形成手順

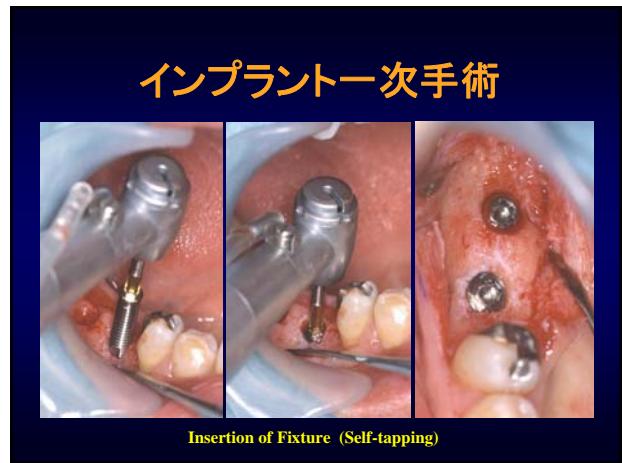
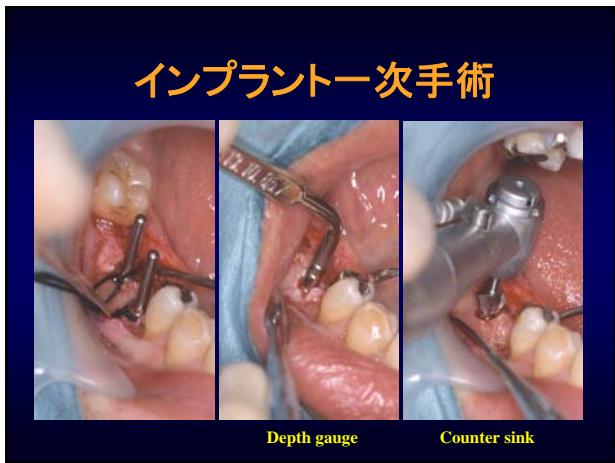
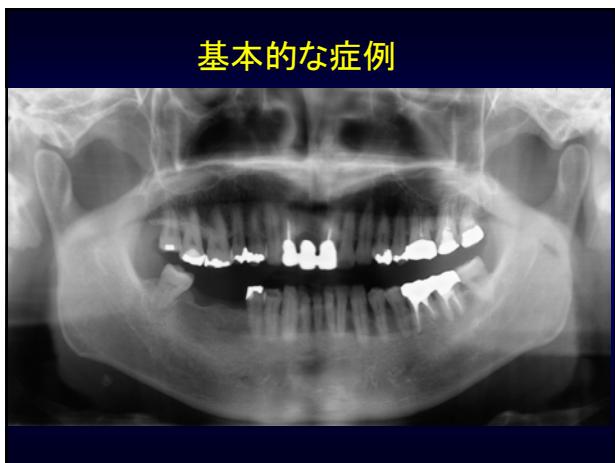


制限資料 参考資料:ノーベルバイオケア

フィクスチャー埋入 カバースクリュー装着



制限資料 参考資料:ノーベルバイオケア



インプラント一次手術



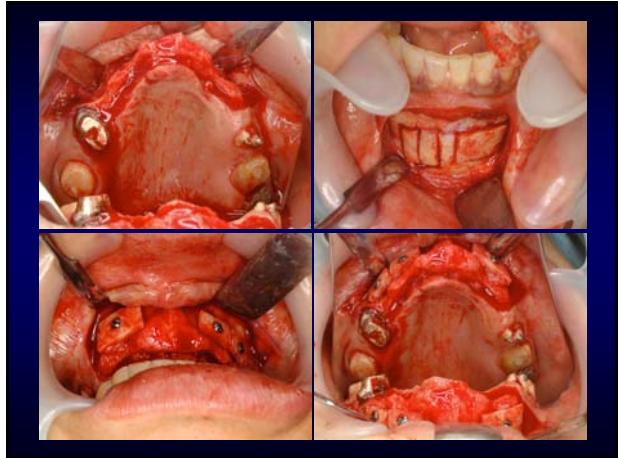
Cover screw

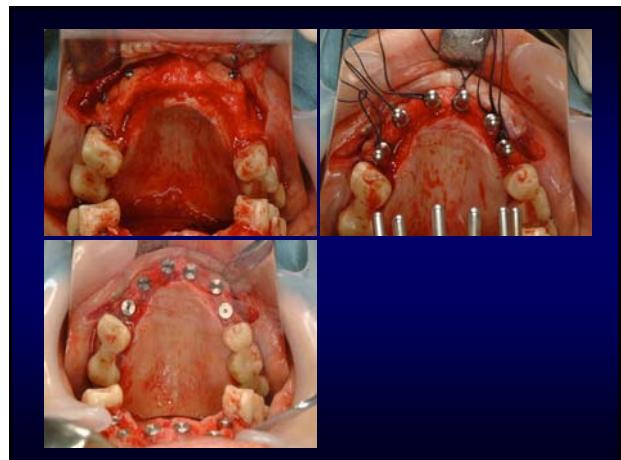
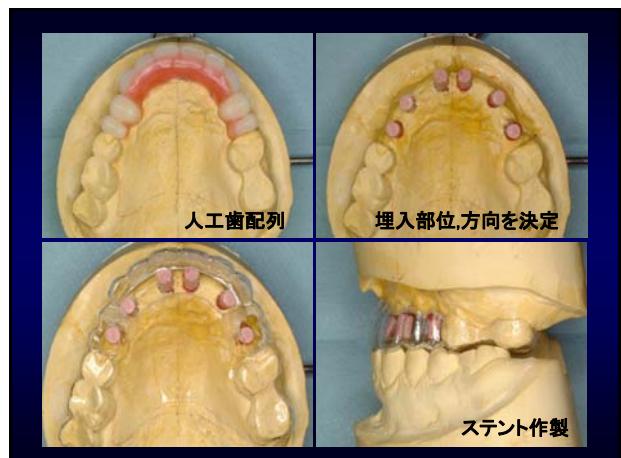
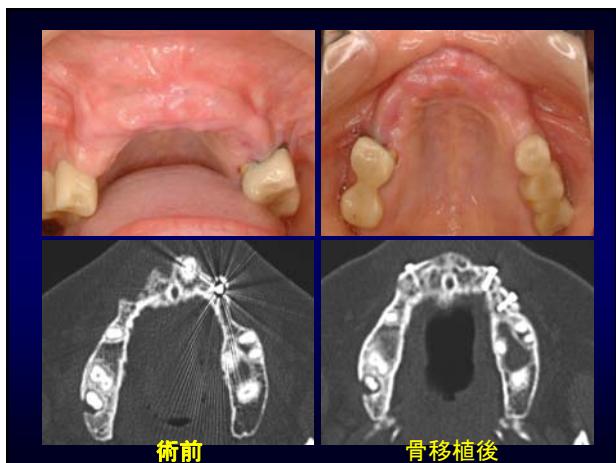


多数歯インプラントの症例



骨移植を併用した 多数歯のインプラント





インプラント治療に 何歳までという 年齢制限はない ？

何歳までがインプラント適応であるかを明確に述べている報告はない。

80歳以上でもその成功率が壮年、若年者と変わらないという報告もある。

インプラント治療に対する理解度や
希望の強さ
インプラントの自己管理能力の有無
治療後のQOL向上の観点
これらを総合的に検討

結 論

口腔インプラントがQOLの向上に
寄与する可能性は極めて大きい
インプラントは大きなリスクを侵してまで行う治療ではない